

## 冑山神社の社殿彫刻

大里歴史研究会 岡田辰男

私たちは十年以前「根岸友山・武香顕彰会」を立ち上げ、その事績調査を行ってきたが、その調査時、先代当主から冑山古墳上の八幡社と屋敷内の稲荷社は、宝暦年間（1751～62）林兵庫の弟子内田清八郎が建築したものと聞いていた。妻沼の郷土史家に尋ねると、聖天様を建てた初代林兵庫の一番弟子内田清八郎は、三尻宿出と教えてくれた。

冑山古墳は、国道 407 号線冑山バス停のすぐ西側の山上に築かれている直径 90m、高さ 11m、墳頂の標高 51m の円墳で、県指定史跡になっている。武蔵国造の墓との伝説があり、江戸時代初期の慶長 17 年（1612）村人が塚を穿ち、石郭から甲冑、鏡、太刀など掘り出したが、祟りを恐れて埋め戻し、八幡社を勧進したという。付近一帯が根岸家の所有地で、墳頂に鎮座する現在の社殿は宝暦 2 年（1752）根岸家が建設し、私祭していたが、明治時代神社合祀令が出たとき、八幡社を含めた社地を寄進、山王社、天王社を八幡社下に遷座して、いまは村管理の冑山神社になっている。

石の階段を上がりつめた最奥、木々に囲まれた八幡社は、間口奥行きとも 1.05m（3 尺 5 寸）、高さ 3m、庇の伸びた瓦葺き入母屋の社殿作り、総体が檜造りのようで、左右、後ろの縦横 1m 弱の壁面は七福神、七聖人など、欄間、軒下柱などは人物、竜、花鳥など聖天堂の彫刻と見まがうような彫刻が一杯埋め込んである。初め彩色だったようだが、風雪に曝されて殆ど剥がれ落ちているのが残念、20 年以前地元有志が痛んだ社殿を急修理し、覆い屋を建てて保存を図っている。



（熊谷市公連だより 第 13 号 平成 24 年より）